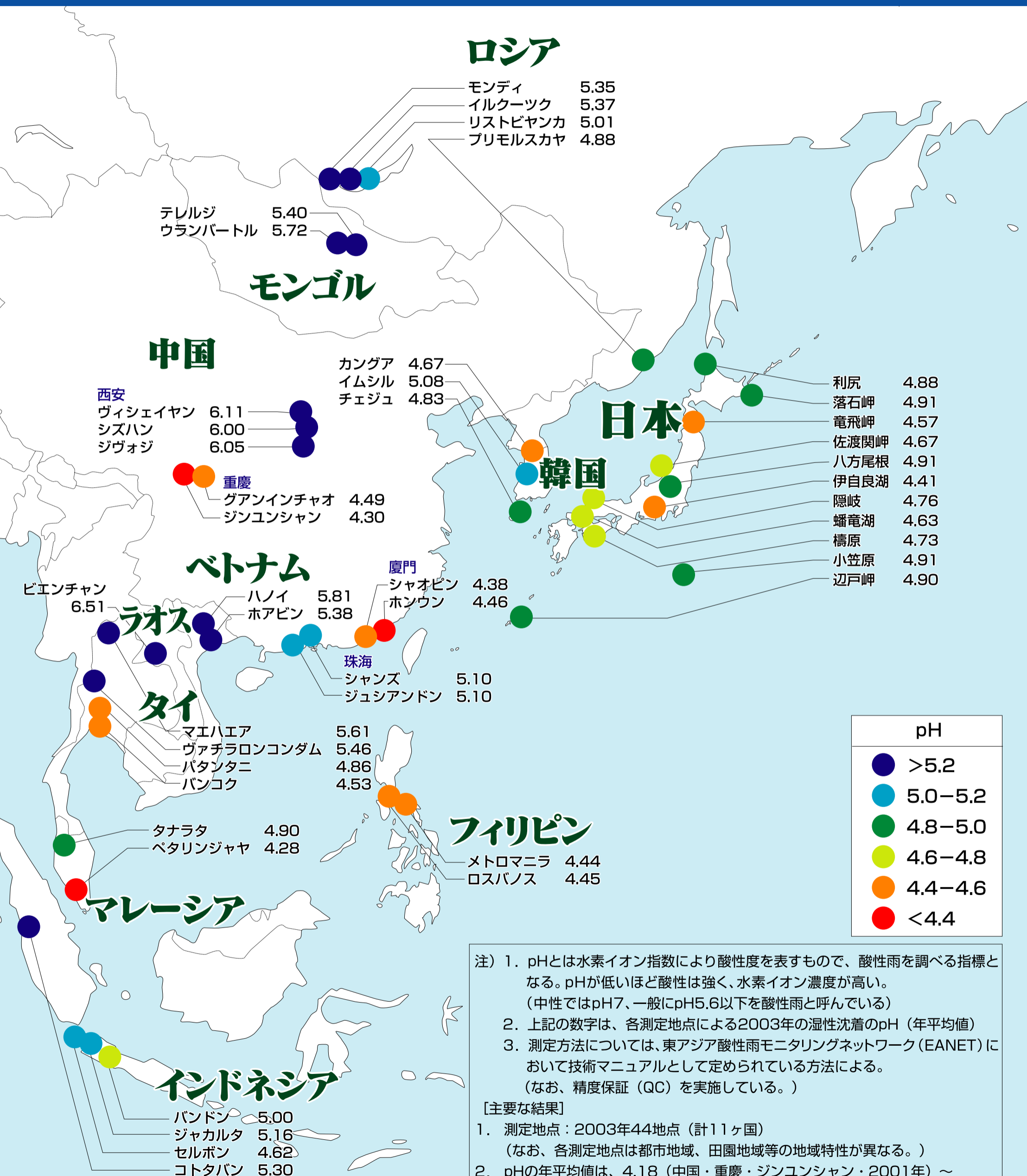


# 東アジアにおける酸性雨の状況

各測定地点における年平均 pH (2003年)



pH	
●	>5.2
●	5.0-5.2
●	4.8-5.0
●	4.6-4.8
●	4.4-4.6
●	<4.4

注) 1. pHとは水素イオン指数により酸性度を表すもので、酸性雨を調べる指標となる。pHが低いほど酸性は強く、水素イオン濃度が高い。  
(中性ではpH7、一般にpH5.6以下を酸性雨と呼んでいる)  
2. 上記の数字は、各測定地点による2003年の湿性沈着のpH (年平均値)  
3. 測定方法については、東アジア酸性雨モニタリングネットワーク (EANET) において技術マニュアルとして定められている方法による。  
(なお、精度保証 (QC) を実施している。)

- [主要な結果]
- 測定地点：2003年44地点 (計11ヶ国)  
(なお、各測定地点は都市地域、田園地域等の地域特性が異なる。)
  - pHの年平均値は、4.18 (中国・重慶・ジンユンシャン・2001年) ~ 6.51 (ラオス・ビエンチャン・2003年) の範囲に分布。
  - 経年的な変化については今後、解析・評価が行われる予定。
  - 日本においては、この期間のデータは従前のモニタリングデータと同レベル。
  - 北アジア地域ではpHが6を超えるデータもあり、黄砂による中和作用が示唆。